

「恵方巻の“恵方”とは？」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

節分の日には豆をまき、「恵方巻」を食べるという習慣が定着しつつある。恵方巻は私が子どもの頃は、関東ではすたれていた習慣だった。私もつい最近まで、そんな習慣があることすら知らなかった。ところが、コンビニや居酒屋チェーン店で大々的に宣伝したので、ここ数年で急に広まったように感じる。

恵方巻は「恵方」を向いて、かぶりつく縁起がいいと言われ、誰もがその方向を向いて食べるようだ。その「恵方」とは一体何だろう？

「恵方」は「歳徳神(としとくじん)」が存在する方位とされる。歳徳神はその年の福を司る神様で、年によって、鎮座している方位が変わる。当然その方位に「福(ご利益)」があるわけで、本来、初詣も恵方にある神社に詣でるのが、最も縁起が良いとされた。

(「恵方詣り」) 恵方は古来からの二十四方位のうち 4 つの方位がそれに相当する。この二十四方位というのがちょっと厄介だ。

現在使われている方位は、四方位(東西南北)、八方位、十六方位、それにあまり知られていないが三十二方位というものもある。二十四方位は、四方位、八方位とは一部一致するが、あとは微妙にずれている。例えば、平成 27 年の「恵方」は「庚」で、西よりもわずかに(15°)南に寄った方位である。「西」でも「西南西」でもない。あえて一番近い方位をあてはめれば、三十二方位の一つ「西微南」(西と西南西の間)という聞きなれない方位になる。

「今年の恵方は西微南です！」なんて宣伝しても、「はあ？なんすかそれ？」と言われるだけだろう。そこで、よくわかるように、「今年の恵方は西南西です。」或いはもっと大雑把に「今年の恵方は西です。」となるわけである。

節分の前の日、私は行きつけのお店(居酒屋)で恵方巻きを注文した。もちろん正確に「西微南」を向いて、有難くいただいた。



「恵方巻き」

非常においしく、靈験あらたかな味でした。1本でお腹一杯になりました。奥にあるのは、幻の銘酒「瀬祭(だっさい)」。あ、お店の正体がバレバレですね……。